



福島県立梁川高等学校

平成 29 年 12 月 8 日

校長通信

Team Yanagawa

vol. 15

■ ことごとく冬に入りたる吊し柿 (石田勝彦)

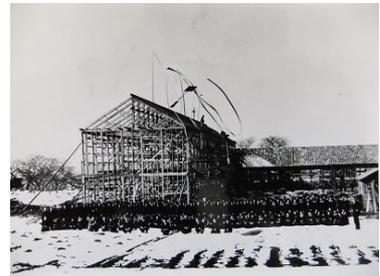
校舎南側の自転車置き場を利用して干し柿が吊されています。今年も学校家庭クラブが中心となって「あんぼ柿」作りが行われました。「あんぼ柿」は「天干し柿」が転じた名称と言われ、梁川町の五十沢地区で盛んに作られている特産品です。震災直後は生産が自粛されていましたが、平成 25 年度にふるさとの味を守りたいとの思いから研究を始めました。皮を剥いた柿を硫黄燻蒸して干すまでの作業の実践、「あんぼドラ焼き」や「あんぼ入りヨーグルトゼリー」などのスイーツの開発は 5 年目を迎えました。学校家庭クラブの活動は、「あんぼ柿」という地域素材を教材化し、食文化や地場産業を学習する価値ある取り組みです。私は寒風に晒されている「あんぼ柿」を眺めながら、美味しくなることをひたすら念じています。



■ 日米開戦と梁川町立実科高等女学校 ～町民あげての校舎増築～

今から 76 年前の今日は太平洋戦争が始まった日です。昭和 16 年 12 月 8 日未明、日本陸軍がイギリス領マレー半島に侵攻、日本海軍がハワイ真珠湾のアメリカ太平洋艦隊を奇襲し、日本は米英との戦闘状態に入りました。国策を誤り始められた戦争は 3 年 8 ヶ月に及び、昭和 20 年 8 月、日本が連合国に無条件降伏することで終結しました。先の戦争が多くの国民の生命を奪い、その家族の運命を変え、国土に甚大な被害を残したことで、アジア・太平洋の国々に住む人々に計り知れない苦難を与えたことは、決して忘れてはならない歴史です。当時を知る人々が次第に少なくなり、戦争の記憶が風化する中、戦争を体験していない私達の世代がその記憶を継承し、次世代に伝えていかなければならないと思っています。

ところで梁川高校の前身である梁川町立実科高等女学校の当時の様子はどのようなものだったでしょうか。学制改革により昭和 16 年 4 月から修業年限が 2 年から 4 年に延長され、募集定員も 1 学年 100 名に増えています。そのため校舎増築が急務となり、同年 11 月に起工式、12 月に平屋建て部分の上棟式がありました。翌昭和 17 年 1 月には二階建て部分の上棟式が行われ、同年 5 月には落成式が挙行されています。増築工事は急ピッチで進められ半年余りで完成しましたが、梁川町は苦しい財政事情の中、臨時予算を組み町有財産の山林を売却して費用を捻出しました。建築費は昭和 16 年度経常予算の歳出総額を上回る 5 万 9 千円余りであったことから、町民にとって大きな負担であったことが分かります。少しでも経費を抑えるため、敷地の整地工事は生徒、青年団、町内会、隣組等の勤労奉仕によって行われ、町有財産払い下げ完了までのつなぎ資金として銀行からの一時借入れも行われました。また議会では寄付の割り当てが議題となり、加藤宗平町長の俸給にまで議論が及びました。当時の議会資料を読むと、いわゆる「女学校増築問題」について、町会議員が熱心に議論している様子を伺うことができ、梁川町民の女学校に寄せる期待が伝わってきます。私は梁川町の人々が日米開戦を挟んだ大変な時期に校舎増築を成し遂げた事実を胸に刻み、日々の仕事に励みたいと心を新たにしています。そして先人の努力の上に今の梁川高校があることを生徒諸君に伝えていかねばならないと思っています。



昭和 17 年の上棟式

税に関する 高校生の作文表彰式

国税庁主催「税に関する高校生の作文」コンクールにおいて、1 年生の湯原正隆君が福島地区税務関係団体協議会長賞に入選し、今日 4 日、校長室において表彰式が行われました。当日は福島税務署長の小野寺哲良様から湯原君に賞状と記念品が授与されました。生徒諸君は作文を通じて民主主義を支える根幹である租税の意義と役割を学びました。将来、納税者として国や社会の在り方について主体的に考えてくれることを期待しています。



賞状を授与される湯原君

ALの視点から授業改善に取り組んでいます〈その2〉

校長による授業参観も終盤にさしかかった11月20日、若手教員2名による授業を参観しました。佐藤良紀教諭による3年生の化学基礎は、「空気の平均分子量」を求め、身の回りの様々な気体が空気より軽いか重いか判断できることを目標とした授業でした。目標と課題が効果的に明示されていること、学び直しの時間が確保されていること、様々な気体でシャボン玉を作る実験を通じて思考・判断する場面を設定していること、グループワークを取り入れ対話的な授業を展開していることなど、多くの工夫が見られました。また宮林寛樹教諭による2年生の数学Ⅱは、「確率の計算」ができることを目標とした授業でした。分かり易い言葉による発問と説明、さいころを使用した様々な例題による演習、ペアワークによるさいころの実験、実験結果からの現実世界と数学的世界の対比など、様々な工夫が見られました。二人とも**少人数指導の良さを生かしつつ、アクティブラーニング（AL）型の授業を通じて、生徒の主体性を上手く引き出していました。**何より生徒達が楽しく学んでいる姿と二人の丁寧な指導が印象的でした。



2年生進路ガイダンスが行われました

11月22日、2年生と保護者を対象に進路ガイダンスが行われました。全体会終了後、就職希望者と進学希望者に分かれ、それぞれ二つの分科会において講師の方々から説明を聞きました。就職分科会ではアサヒ電子様、運喜様、信達福祉会様、フクシマフーズ様に来校いただき、働くことの意義や企業の求める人材についてお話をいただきました。進学分科会では短大、専門学校から講師をお招きし、幅広い分野に関する進路情報についてお話をいただきました。また公務員や自衛官を希望する生徒向けの説明も行われました。生徒の感想文に目を通しましたが、ほとんどの生徒が説明の要点をしっかりと記録していました。生徒諸君には**将来の進路を見据えた行動を本格的に始めること**を期待しています。



3年生進路講話が行われました

11月24日、3年生を対象に進路講話が行われました。FSG カレッジリーグ事業政策部の清水誠一氏をお招きし、「就職後の心構え」の演題でお話をいただきました。生徒諸君は社会人に求められる資質と行動、ビジネスマナー、やめなくなった時の対処方法などについて学びました。生徒諸君は真剣な表情で講話に耳を傾けていました。全国的に新規高卒者の離職率が問題になる中、本校も例外ではないことから、**早期離職を未然に防ぐキャリア教育**に全力で取り組んでいるところです。



県きのこ料理コンクールで幕田君が入賞しました

11月23日、福島県森林・林業・緑化協会主催の第2回福島県きのこ料理コンクールの本審査が行われ、2年生の幕田幻君の作品「**きのこ豆腐のネバネバピリ辛サラダ**」が奨励賞をいただきました。165の応募作品の中から一次審査を通過し、本審査における厳しい選考の結果の受賞でした。4種類のきのこに豆腐と野菜を混ぜ、ゴマ油と和がらしが入った醤油ベースのソースを絡めた作品は、ピリ辛味に仕上がって大変美味しかったです。奨励賞おめでとうございます。



図書室だより

図書室では新着本の貸出が始まりました。また特設コーナーでは**歴代梁高生に読まれてきた本、あこがれの先生が読んだ本、秋の本が紹介**されています。ちなみにあこがれの先生本コーナーでは三瓶先生、宗像先生お薦めの本が展示されています。**たくさん本が生徒の皆さんに貸出されるのを待っています。**



入り口にはクリスマスツリーが！

弘済会教育支援事業 目録贈呈式について

11月30日、弘済会福島支部長の竹中柳一氏が来校し、校長室において寄贈物品の目録贈呈式が行われました。寄贈された扇風機とノートパソコンは教育環境の整備に大いに役立つものであり、大切に使用させていただきますことをお伝えしました。

